

年 月 日

令和元年度 海外インターンシップ報告書

信州大学 人文学部 人文学科 3年

実習期間	2019 年 9月2日(月) ~ 9月13日(金) 12日間
実習企業	ACA CONSULTING CO., LTD
実習地	ミャンマー

1. 実習目的

Chapter1 purpose

将来、教育関係の職に就きたいと考えているため、多くの経験をして幅広い知見と多様な考え方への理解を深め、教育に活かしたいと考えたためです。特に、海外企業へ行くことは、異文化交流や多様な物事の考え方を学ぶ絶好の機会であると考えました。

また、設計会社の業務を知ることで将来の進路について考える際に多角的な視点を持ち「自らがやりたいこと」を見つけることに役立つことがあればと思ったためです。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

・実習企業：ACA CONSULTING CO., LTD
(No.0204, Sakura Tower 339, Bogyoke Aung San Road, Kyauktada Township, Yangon, Myanmar)

・HP：<http://www.aca-sekkei.co.jp>

・本社：株式会社エーシーエ設計
(〒381-0012 長野県長野市柳原 2360 番地 4)

・事業内容：建築の設計管理。

・応対頂いた方々：鈴木雅善さん、Thet さん、Cho さん

3. 実習日程

Chapter3 schedule

9月2日 ヤンゴン空港到着

9月3日 【ヤンゴン】ヤンゴン市内散策、ダラ地区(最貧困地区)視察

9月4日 【ヤンゴン】ミャンマーについて文献調査、ビジネストリップの日程・行き先決め

9月5日 【ヤンゴン】社内説明原稿作り

9月6日 【ヤンゴン】ティラワ経済特区視察

9月7日 【ヤンゴン】休日、信濃の会(長野県にゆかりのある人の集まり)

9月8日 【ヤンゴン】休日、夜行バスにてバガンへ

9月9日 【バガン】5つのホテルへ営業

9月10日 【マンダレー】サプライヤーとの昼食、2つのホテルへ営業

9月11日 【マンダレー・ミンゴン】2つのホテルへ営業

9月12日 【インレー】1日中船で移動、4つのホテルへ営業、夜行バスにてヤンゴンへ

9月13日 【ヤンゴン】実習のまとめ、ヤンゴン空港出発

9月14日 日本到着

4. 実習内容

Chapter4 laboratory

ティラワ経済特区という海外企業(日本企業も多数)が集まる工業団地の視察とミャンマーの現地の工業団地を両方視察しました。その中でティラワ経済特区の今まさに開発されている様子からミャンマーの今後の発展を見て感じました。現地の工業団地では着工したまま建設が止まっている

建物だったり、多くの働かずに休憩している人を見受けられました。両工業団地を比べると発展のスピード感と計画性の違いがはっきりと見えたことが印象的でした。



2. ビジネストリップの日程調整・営業同行

9月9日～13日の間は中心のヤンゴンを離れ、バガン、マンダレー、インレーなどの地方都市へ営業をするビジネストリップを行いました。このビジネストリップの日程と営業先をインターン生の2人で考えました。どんな目的か、ACAの強み、ミャンマーの建築事情などを鈴木さんから聞きながら営業先の決定と英語での社内案内を考えました。結果、ビジネストリップはインターン生が決めた都市やホテルに行きました。社内案内を実践することはあまりなかったが、ACAの会社概要とミャンマーでの需要を感じることができました。

実際にビジネストリップでは、多くのリゾートホテルなどを訪問し、ACAの概要とサービス内容を説明しました。また、それぞれの営業先にどんな設備があれば良いか、どんな提案を我々ができるかを考えました。具体的には、防火装置の設置や窓ガラスに遮光機能をつけるなどの提案を考えました。



3. 文化体験

毎日が異文化との交流でした。例えば、食事や習慣、ミャンマー人との関わり合いです。特にこの2週間お世話になったミャンマー人スタッフのThetさんとChoさんとの交流から異文化を五感で感じることができました。例えば、私たちは毎日パゴダ（仏教寺院）へ行ったのですが、礼拝の仕方や作法などを教えていただきました。Thetさんのお宅にも行かせていただきました。ミャンマー人の住む家、食べるもの、家族との雰囲気などを体験できました。



5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

実習の成果は異文化交流と営業をして感じたことの2つあります。

まずはミャンマー人スタッフとの交流だが、Thet さんとは英語、Cho さんとは日本語で会話をしました。異なる言語、文化の人とコミュニケーションを取ることの困難さを実感しました。それでも話さなければ何もできないので、なんとか伝えようと思いました。コミュニケーションにおいて大事なことを学びました。そのような人びとと同じ職場になるときに、どう相手を理解していくのが重要であると思いました。鈴木さんのお話では、ミャンマー人の特徴として純粋でまじめであるが、基本を応用したり、臨機応変に対応することが少し苦手とのことでした。そこで鈴木さんはやるべきことをひとつひとつ書かせ、確認することで業務連絡の伝達ミスを防いでいました。また、職場では常に対話による意思疎通が行われており、他言語でもお互い齟齬のないような環境づくりが勉強になりました。

営業に同行したときに感じたことは、ミャンマーが発展の可能性に溢れているということです。例えば、営業で訪問したホテルの多くが日本の塗装の技術に注目をしている、建築デザインももちろんですが、基本的な設備（防火設備、浄水設備など）にも改善できる点に私たちインターン生が気づくことができるほどあることに驚くとともに、発展の可能性を感じることができました。他にも広大な土地をどう活用できるのか、教育水準をどう上げるかなどミャンマーの国としての課題も発見することができました。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

今回の海外インターンシップでの経験を通して、様々な業種や専門知識の活かし方について学ぶべきだと感じました。今回、初めて建築という業種を経験して、やってみなければ分からなかったことに気づきました。それが今後の進路設定や教育者として広く深い知識を得ることに結びつくのだと思います。様々な業種を経験すること、特に自分の希望職種とは異なる業種を経験していきたいです。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

私は海外インターンシップに行こうかどうか迷っていました。そんな私が行こうと決断したのは「何か面白そう」「やってみなければわからない」と思ったからです。海外にある企業を経験する、異文化を経験する、全てが新鮮で自分だけの価値を必ず見つけることができることと思います。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

この度は海外インターンシップに参加させて頂き誠にありがとうございました。

インターンシップの手続きやヤンゴン事務所との連絡などをしていただいた経営企画室の箭内様、二週間という長い期間、私たちインターン生に貴重な経験をさせて頂いた鈴木様、ヤンゴン事務所のスタッフの皆様、大変お世話になりました。とても密度の濃い実習となりました。本当にありがとうございました。

